

経済活性化とは

－足利市経済活性化諮問会議で考える－

開倫塾

塾長 林明夫

Q：足利市の経済活性化を考えているそうですね。

A：(林明夫：以下省略)はい。大豆生田実足利市長からの依頼で、足利市経済活性化諮問会議の会長を委嘱され、24名の委員の方々とともに昨年9月から1年間、市の経済活性化策を考えています。

中間答申を3月に、最終答申を8月末に提出する予定です。

以前は16万8千人であった人口が15万3千人と1割減、トリコットをはじめとする繊維産業が自動車部品産業に移り、多くの企業が円高で苦しんでいる中、どう経済を活性化させるかが課題です。

Q：どのように会議をしているのですか。

A：毎月1回午後2時から5時まで開かれる本会議には、足利市長はじめ市の関係部課長が全員出席し、ゲストを随時お招きして議論。終了後は5時30分から2～3時間、軽い食事をしながらディスカッション。毎月1回は、地元選出の茂木敏充自由民主党政務調査会長など有識者からのヒアリングや先進地の視察。本年に入ってから、6つのワーキンググループで経済活性化の具体策を少人数で議論しています。

Q：どのような議論をしているのですか。

A：最大の課題の一つは2025年問題です。団塊の世代が75歳を迎える2025年まではあと10年余り。それまでに医療・介護・福祉をどうするかを考えねばなりません。

一番よいのは、高齢者の定義を人口の15～20%までとすることだと、私は個人的に思っています。ただ、一般的には受け入れがたいようです。

嚥下力(飲み込む力)を強め、胃瘻やチューブによる栄養注入にならないようにすること、認知症の予防や回復を徹底的に行うこと、要介護度を下げる取り組み、生活習慣病の予防や回復を全市を挙げて行うことが肝要と考えます。尊厳死やホスピスの普及、高齢者専門の老人科の市内随所での開設、友達や気心の知れた人たちと暮らすグループホームを促進し、励まし合い・助け合いながら人生を全うする。

大病院は緊急度の高い病気のみを扱い、個人医院はホームドクターに徹する。看取りや機能回

復訓練、美味しい食事の介護施設を評価。医療・介護・福祉に携わる人々が安心して働けて、能力向上ができることも大事。

足利市は関東平野の北端に位置し、農地や森林がたくさんあるので、週末や退職後の楽しみとしての農業・林業を促進。

Q：教育についての議論はないのですか。

A：地方であっても、学校自由選択制の導入は議論すべきです。

幼小連携、小中連携、中高連携、高大連携、更には産学連携で、いわゆるギャップイヤー問題の解消を図る。

国際化には英語のコミュニケーション能力が欠かせないので、英語教員の質の向上を図り、足利市の英語の授業はすべて英語で行う。

日本最古の学校足利学校のある街にふさわしい日本一の学校教育を目指す。論語を幼稚園から社会人のための教育に全面的に取り入れ、志が高く規範意識の高い市民を育成する。

足利市はもともと生涯教育がさかんなので、日本一の生涯教育の街を目指す。日本一のレベルと言われる公民館などでの公開講座を、大学と連携して大学の履修科目とする。一度社会に出た人々がもう一度自らの職業的なスキルを磨き直す「研修の街足利」に徹するという考えも出されました。

Q：肝心の経済活性化はどうするのですか。

A：ものづくりのさかんな足利市は、整理・整頓・清掃・清潔・躰の「5S(ごえす)の街」として、見学者が多数訪れています。「5S」をきっかけに市内企業の連携を図り、「5S クラスタ」をつくる。

地元大学に MOT(経営工学)コースを設立したり、工業系の高等専門学校の設立を呼びかけたりしたく考えます。雇用を生み出すベンチャー企業を全面支援。既存企業の RandD や企業内ベンチャー、国際展開も全面支援。外国人留学生の雇用促進や対内直接投資の促進など、あまりお金をかけずにやるべきことは山ほどあります。

Q：市民からの意見は聞かないのですか。

A：議論の内容は、足利市の企画政策課のホームページで公開。耳に痛いことを言う人は尊いとの考えのもとに、はっきり意見を言う市民の皆様をフォーカスグループにお招きして 1 月から意見をお聞きし、本会議の議論に反映させています。

Q：これで足利市の経済は活性化しますか。

A：私も言ったからにはやらざるを得ません。市長や市の幹部・市議会、また、足利市民の皆様にもこの会議での議論の内容をどんどんお伝えし、是非お考え頂きたいです。議論のきっかけになればと思います。街の発展はすべて、市民の自己責任・自助努力です。あきらめたらおしまいです。

Q：学習塾・予備校・私立学校の経営者の皆様にお伝えしたいことはありますか。

A：どこの市や町でも、経済活性化の前提は教育であると確信します。家庭教育、学校教育、社会教育に本気になって取り組み、高い志を持って自律的に活動する市民がたくさんいてはじめて、経済の活性化ができ、雇用が生まれ、豊かで安心した生活ができます。

教育ほど大切なものはないと、この会議を通して私も痛感しました。産業界のみならず、あらゆる分野の市民からの教育への期待は驚くほど大きなものがあります。どうか皆様も、より強い信念と自信を持って自らの教育活動を全うして頂きたいと希望します。

Q：最後に一言どうぞ。

A：今月も、お読みになれば必ずお役に立つと考える本を御紹介させていただきます。1年365日、一日も欠かさず30万人以上の方々に「平成進化論」という社会人としての勉強の仕方に特化したメール通信を出し続けている鮎谷周史さんが、師匠と呼ばれる人の見つけ方、師匠からの学び方についての本を出しました。「変わる人」かんき出版2012年1月6日刊です。

私の大好きな中村天風先生の口述速記録「幸せな人生」PHP研究所2011年11月9日刊も、積極的な人生を送る上で欠かせません。

田口佳史先生の「リーダーの指針・東洋思考」かんき出版2011年12月19日発行と、「孫子の至言一険しい坂を乗り越え、己の人生に勝利するために」光文社2012年1月20日刊は、教え子を励ますために絶好の著と確信いたします。

－ 2012年1月23日記－